

青少年ふくしま

福島県青少年育成県民会議
第43号
平成26年7月31日(木)

大人が変わるためのセミナー第1回講演会開催



平成26年7月11日(金)

青少年会館第1研修室

演題「子どもが大人になっていくときに
周りの大人ができること」

講師 福島大学人間発達文化学類
准教授 富永美佐子 氏

会議員の皆様方にはご案内しましたとおり、このたびのセミナーは市町村民会議の青少年育成指導者養成講座を兼ねて実施しました。台風8号最接近の日に県内各地からお出でくださった方々に心から感謝申し上げます。限られた時間でしたが、47名の参加者は熱心に受講しました。

講師の富永先生は「キャリア(経験をもとに現在や将来を見ずえること)発達」「発達心理学」「臨床心理学」を研究分野とされ、専門的な内容をかみくだいてお話してくださいました。講演をお聴きして、「思春期・青年期」が人生のなかでどんなに大切か再確認するとともに、その時期の子どもにどう接することが望ましいのかたくさんのヒントをいただきました。

～講演内容紹介～

- ・「大人」の私たち：家族や家庭のちょっとしたことに喜びや幸せを感じることができる(富永先生から「最近うれしかったことは?」と問いかけられました)
- ・現代男子学生の本音：最も避けたいことは「結婚」と「就職」
- ・フロイトの言葉：健全な「大人」とは「愛すること」と「働くこと」ができる人
- ・日本の青少年(高校生)の実態：現状に満足しているが将来に対する希望や夢がない
→なりたい職業がない、目標とする大人がいない、親と進路について話をしない、親の職業の内容を知らない、将来が不安 等々
- ・進路選択に必要な「チカラ」：「自己理解」「情報収集」「人間関係」「計画立案」「意志決定」
- ・「チカラ」を発揮するために必要な「自己効力」：「自信」とほぼ同じ概念
- ・幼少期から「自己効力」を育てる：「自分が役に立つ」存在であることの経験、親との信頼関係、信頼できる大人からの支え、達成経験の積み重ね、モデル学習
- ・日本の15歳：「親は自分に無関心で、自分は愛されていない」と感じている→子どものことを気にかかけ、それを言葉や態度で示してあげることは大切
- ・絶対避けたい(NGな)関わり：「否定的な言葉かけ」「他の子との比較」「子どもの監視」
- ・望ましい親子関係：乳幼児期は基本的信頼感、自己肯定感をはぐくむ惜しみない愛情
児童期は社会性→「やっていいことといけないこと」を教え込む
思春期は心理的離乳期なので干渉し過ぎずしかし見守る
青年期は精神的自立(アイデンティティ獲得)
- ・親の世代：ストレスと闘う日々→調整の連続→「花も実もある中年期」へ
- ・モデルとして：親そして「親以外の」大人→「キャリア教育」「職場体験」の効果は絶大

- ・進路選択とは：青年期は人生の基礎を作る時期で、その後も人生は選択の繰り返し→人は一生涯を通じて、変化・発達していく存在
- ・クロンボルツの理論：幸運は偶然ではない→進路において想定外の出来事を最大限に活用するために準備して動く、行動することがとても重要
- ・ホルンドの理論：自分に合った職業はたくさんある
- ・周りの大人ができること：子どもが40歳になったときの姿「人（家族）を愛し、汗を流し何かを生み出したり社会に貢献したりできる大人」を思い描き、思春期・青年期の悩みを乗り越えていくように関わり、見守ること。
- ・具体的な進路情報やサポートサービス
 - ジョブカフェ福島（福島就職情報センター）：コラッセ福島2階 月～土 予約制
 - うつくしまふくしま未来支援センター：福島大学

参加者の感想から

- ・親ができること、絶対にやってはいけないこと、分かっているつもりでもつい忘れてしまっているため改めて考えさせられた。（40代女性）
- ・40代の目安のこと、いくつかの仕事の経験を持ってよいことについての話に満足している。（60代男性）
- ・自分の子どもに対する接し方が少し変わりそうな気がした。（50代女性）

未来の日本を支える青少年育成を!

～他県の取り組み紹介～



事務局に各都道府県民会議から各種資料が届きます。いずれも青少年健全育成をめざす熱い思いが込められている記録集や小冊子、広報紙等です。参考になる事例がたくさんありますので、いくつか紹介いたします。

岩手県：「いわて家庭の日」（毎月第3日曜日）の取組事項（例）として26項目挙げられています。

その中で「ノー行事デー」「顧客サービス用のカレンダーに『家庭の日』表示」「家庭の日施設利用優待、入店優待（親子割引など）」「行事には子どもが参加できる場面を工夫」「しつけ講座開催」などはとてもユニークな取組だと思えます。

宮城県：「青少年健全育成みやぎ県民のつどい」（平成25・11・13）の基調講演概略より

「青少年の問題を解くヒント 地域住民というもう一つの家族への期待」

（講師 東北大学大学院教育学研究科准教授若島孔文氏）

- ・太陽が植物を活性化するように、こころにも「太陽」が必要であり、「こころの太陽」とは「こころのニーズ」を妨げず、尊重すること。
- ・「こころの基本的ニーズ」とは「自律性」「有能性」「関係性」であり、「肯定的側面」に焦点を当ててこれらのニーズに基づいて青少年のこころの変化を促したい。
- ・子どもに問題があるのは保護者に問題があるという視点ではなく援助することが大切。
- ・大人が、子どもに対して「友達」としてあるいは「おじさん」としてユーモアを持ってかつ真剣に接していく中で関係を築くとうまくいく。

山形県：平成25年度“いじめ・非行をなくそう”やまがた県民運動優秀標語

- ・やっつけろ!! わるい心のイジメおに（小2）
- ・「もうやめて」聞こえてますかその言葉（中1）
- ・ダメだよと言える友こそ真の友（小5）
- ・わかるよね自分がされてイヤな事 自分が言われてイヤな事（小3）